

<p>■After 建築名称 下段:英語名</p>	<p>ローマ第3大学建築学部、MACRO Testaccio Dipartment of Architecture Roma Tre、IL MACRO Testaccio</p>		
<p>建築用途</p>	<p>大分類 教育施設、展示施設、事務所</p>	<p>小分類 大学、美術館、事務所</p>	
<p>改修設計者</p>	<p>Insula Architecture and Engineering, Stefano Cordeschi & Antpnio Pugliano, C. Garofalo, S. Converso(ローマ第3大学)/Massimo e Gabriella Carmassi(MACRO)/Cupelloni Architettura(事務所他)</p>		
<p>所在地</p>	<p>イタリア、ローマ</p>	<p>URL Google Map</p>	
<p>改修年</p>	<p>2002, 2010</p>		<p>After 食肉処理場の痕跡が残るエントランス 撮影者提供者 柳沢伸也(2005)</p>
<p>建築規模</p>	<p>敷地面積:25,000㎡</p>		<p>概要 after かつての食肉処理場をローマ第3大学建築学部、現代美術館別館および事務所等に転用。工場建物群を産業遺産として保存活用している。</p>
<p>掲載書誌</p>			
<p>賞・選定</p>			
<p>■Before 建築名称</p>	<p>Mattatoio di Testaccio</p>		<p>概要 before 19世紀後半に建てられた平屋建てレンガ造の工場施設。長方形のボリュームが合理的に連続配置。食肉市場は1975年に廃止され、その後しばらくイベントスペースとして使われていた。</p>
<p>建築用途</p>	<p>大分類 生産施設</p>	<p>小分類 食肉処理場</p>	
<p>■写真 Before</p>	<p>After 中庭に集う大学生</p>		<p>After 食肉を運ぶレールが残る室内</p>
<p>撮影者提供者</p>			
	<p>撮影者提供者 柳沢伸也(2005)</p>	<p>撮影者提供者 柳沢伸也(2005)</p>	
<p>■リノベーション内容</p>	<p>キーワード 用途変更、外観保存、対比、補強、痕跡</p>	<p>内容 19世紀後半に建てられたテストッチョ地区の食肉処理場は、新工場の建設とともに1975年に閉鎖された。広大な面積をもつ建物群は、産業遺産として保存活用されることとなり、現在では現代美術館別館、ローマ第3大学建築学部、交通警察事務所、および地域のカルチャーセンターなどに使用されている。元の工場建物の空間はほぼそのまま活用され、かつての食肉処理場のサインやレールが至る所に残され、痕跡を残したデザインとなっている。土地建物の所有はローマ市だが、利用者がそれぞれのリノベーションの発注を行った。設計者は以下の通り。 ローマ第3大学建築学部Università Roma Tre: Insula Architettura e Ingegneria, Stefano Cordeschi con A. Beuchat, C. Garofalo, S. Converso 現代美術館別館Accademia di Belle Arti: Massimo e Gabriella Carmassi オフィス等: Cupelloni Architettura</p>	
<p>■備考</p>	<p>入り口の上部に掲げられた看板「TRIPPERIA」とは牛の胃袋専用の臓物処理場のこと。こうした看板はそのまま設置され、かつての痕跡を残したデザインが採用されている。</p>		
<p>■作成者 氏名/所属</p>	<p>柳沢伸也/JIA再生部会</p>		<p>管理者記載 SY-026</p>